

報告：医学系研究科社会医学専攻 博士2年 相場 俊樹 (CMSI RA)

医学系研究科社会医学専攻 博士1年 ベナー聖子 (CMSI RA)

CMSI Students Seminar 司会：吉岡亘、掛山正心、大迫誠一郎、遠山千春  
(医学系研究科疾患生命工学センター)

2011年10月20日(木)、医学部一号館疾患生命工学セミナー室(N206)にて CMSI Student Seminar が開催されました。本セミナーは2008年7月より実施されているグローバルCOEプログラム「学融合に基づく医療システムイノベーション (CMSI)」(拠点リーダー：片岡一則教授)の一環として企画・開催されています。今回のスチューデントセミナーでは、California 大学 Davis 校環境毒性学講座および昆虫学講座の Fumio Matumura 教授をお招きして、開催しました。Fumio Matumura 教授は、有機塩素系殺虫剤の研究をはじめとした昆虫毒物学の分野から、ダイオキシンの体内動態や環境中での動態及び野生生物への影響の研究といった環境毒性学の分野、さらに乳がん細胞におけるダイオキシンなどのターゲットの Aryl hydrocarbon receptor (AhR) の研究といった基礎医学の分野に至るまで幅広くご活躍されている先生です。発表者は医学部健康環境医工学部門に所属する CMSI 関連の博士課程の学生で、各自 30~60 分の口頭発表を行いました。

#### 【午前の部】

3名の学生がそれぞれ研究課題としている標的へのダイオキシン毒性(神経内分泌ストレス応答系への発達毒性、心毒性、ならびに海馬における神経細胞への毒性)に関する研究の成果を発表しました。質疑応答にウエイトが置かれたセミナーとなり、研究の方向性や戦略、得られたデータの考察に至るまで、丁寧なご指摘・アドバイスを頂きました。また、研究者たるキャリアを築いてゆくうえで留意すべきこと、努力すべきことに関しても有益なご助言を頂きました。

私は30分のタイムフレームでしたが、熱心に耳を傾けて下さり、議論は尽きることがなく、大幅に時間がずれてしまいました。幅広い分野において最新の知見をお持ちで、かつ open mindedness を心がける姿勢が印象的であり、研究者としての在り方を見つめ直すという意味でも大変貴重な体験になりました。

#### 【午後の部】

3名の学生がそれぞれ研究課題としている環境毒性学におけるDNAメチル化解析法、発達神経毒性における子宮内電気穿孔法ならびにHPLC法に関する研究の成果を発表しました。

Matumura先生は、幅広くご活躍されている経験を基に、発表者一人一人に対し、現在行っている研究を短期間でさらにインパクトの高い研究にするため、研究の方向性に関して、in vivoだけではなく、in vitroの研究も行った方が良いなどといった具体的なアドバイスをして下さりました。さらに、研究内容だけではなく、研究者の先輩としての研究者人生全体のアドバイスも頂き、私にとって大変意義深いものとなりました。この経験を今後の研究や研究者人生に役立てて行こうと思います。このような機会を与えて下さったCMSIの方々にこの場を借りて厚く御礼申し上げたいと思います。